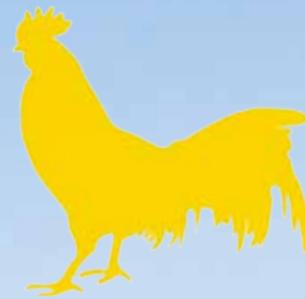




市長 肥後 正弘

謹賀



新年

明 けましておめでとうございませう。旧年中は皆さま方の絶大なご理解、ご協力を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

昨年は、熊本・大分両県に甚大な被害をもたらした熊本地震や東北地方・北海道を襲った台風10号など、あらためて防災対策強化の必要性を痛感した一年となりました。被害に遭われた方々に心よりお見舞いを申し上げます。

本市におきましては、昨年3月に新小林市が誕生して10年を迎えました。これまで市民の皆様をまちづくりの主体とした市政運営を推進する中で、その核となる「きずな協働体」は地域ごとの個性が輝く活発な活動が展開され、本年は三松・東方・南校区で設立が予定されています。「協働」をキーワードに、住み慣れた地域で実際に生活する市民の皆様ひとり一人がまちづくりに参加することこそが、小林・須木・野尻それぞれの強みと魅力を引き出すものと確信しております。

さて、基幹産業の農畜産業始いたします。より質の高い農畜産物の安定生産と担い手育成支援等による振興を促進することで他生産地との差別化を図って参ります。

一昨年公開しました小林市移住促進PRムービー「ンダモシタン小林」は本市の知名度向上はもとより、食・風土・ひとの魅力を伝えることに成功しました。

また、ふるさと納税による寄付も申込が増加し、その寄付金で小中学校の給食費半額補助や小学生の医療費自己負担額の軽減など子育て世代の支援を図ることができました。

安心して住み続けられる地域の基盤となる福祉、教育、環境保全は関係機関との連携を強化することで充実させ、地域医療に関しましては西諸医師会の絶大なご協力を賜りながら「地域医療・健康都市小林市」として健康長寿の取り組みを強く推進する所存でございます。

安心・安全、市民サービスの拠点となる市役所本庁舎が、市産材を活用した木造・木質庁舎に生まれ変わります。効

誰からも愛される 住みよい小林市へ

では日本一の宮崎牛の生産地として本年9月に宮城県で開催される全国和牛能力共進会での三連覇が期待されますほか、「生農地の水」で西諸の畑を潤す浜ノ瀬ダムが通水を開

率的な行政機能はもろろん皆様の憩いの場として、多世代の出会い・交流の場としてご利用いただけますよう整備に努めて参ります。

中心市街地においては、現在JR小林駅前建設中の「地域観光交流センター(仮称)」や小林まちづくり株式会社による「小林まちなか複合ビル(仮称)」など、にぎわいのまちづくりに向けた事業が着実に進んでおります。須木区域においては小野湖を水上スポーツ・レジャーの拠点とするための整備、野尻町区域においては大塚原エリアの整備などハード面からも回遊性の向上に努め、人を呼び込み雇用を生み出す仕掛けづくりに取り組んで参ります。

市民の皆様、地域、西諸2市1町そして市内と市外が結びつくことで、誰からも愛される住みよい小林市となりますよう全力を傾注する所存でございます。

この西年が皆さま方にとりまして素晴らしい一年となりますことを祈念いたしまして、新年のあいさついたします。